

## SDGsアンケート調査について



当社のSDGs取り組みを把握するため、毎年1回アンケート調査を実施しています。今年で第4回目になります。アンケート提出の締め切りは、2月7日までに延長しました。アンケート結果の報告は3月度安全衛生委員会（2月25日）の後の勉強会で実施する予定です。



## フリマについて



12月2日から社内無料フリマがスタートしました。みなさんのご協力で、生活用品から子供の絵本までいろいろな品物が集まりました。開催から約1か月で、集まった物の半分以上が欲しい方へと行きわたりました。しばらく、フリマは継続することにしましたので、随時品物を受け付けています。



## 洗剤等の備品回収・再利用について



「もったいない」ことを減らし、資源の有効活用と社員の節約意識を向上するため、3R活動の一環として、KUKULUの提案で下記のことを実施することになりました。ご協力をよろしくお願いいたします。

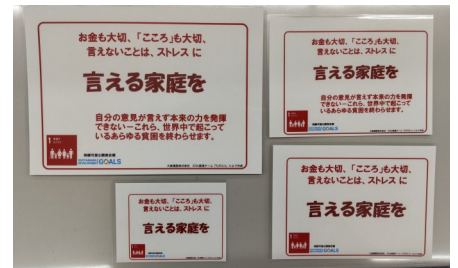
- ・工事完成後、現場事務所を閉める時に、余っているまたは未使用の洗剤、ハンドソープ、アルコールとマスクをまず会社に持ち帰り、所定の場所に保管する
- ・工事が始まる際に、備品購入前に、保管場所を確認し、保管されているものから先に使用すること



## 張り紙家庭版について



SDGsの普及啓発に、会社で使っている張り紙を基に、KUKULUでSDGs張り紙の家庭版を作成しました。補足説明の豆知識を書いてあるパターンとないパターンがあります。ぜひご家庭でもご活用ください。



## 宇奈月ロータリークラブのフードドライブ事業について



SDGs活動の一環として、宇奈月ロータリークラブ等の「SDGs（フードロスをなくそう）フードドライブ事業」に協力しました。物品の提供先は宇奈月自立塾です。宇奈月自立塾は、引きこもり等の方を支援する施設で、現在様々な年齢の方々が24名、職員6名が共同生活し、自炊して生活されているため、いくら食料があっても足りないという現状だそうです。

「フードドライブとは」については、2ページ目の内容をご参考ください。

編集：マネジメント支援室 田

## 食品ロス削減活動について



昨年の6・7月号のSDGs通信では、食品ロスに関係あるアプリを紹介しましたが、食品ロス削減には、世の中でのいろいろな活動が取り組まれています。令和元年10月1日から「食品ロスの削減の推進に関する法律」が実施され、10月は「食品ロス削減月間」、10月30日は「食品ロス削減の日」となりました。

食品ロスの勉強をしていると、いろいろな言葉との出会いがあります。今回の宇奈月ロータリークラブのフードドライブ事業への協力がきっかけで、フードドライブという言葉を知りました。調べたら、フードバンク、フードパントリーという似ている言葉もあります。今回の通信では、この3つの言葉を紹介します。

(参考：[令和2年度食品ロス削減月間について](#) | 消費者庁 ([caa.go.jp](#)))

### ◆フードドライブ

フードドライブ (food drive) とは、家庭で使いきれない未使用の食品を持ち寄り、まとめてフードバンク団体や、地域の福祉施設、子ども食堂などに寄贈する活動のことを示します。参加する方法はフードバンク団体及び社会福祉協議会を通じて寄付するとか、常設しているところを持つ自治体やスーパーなどに寄付する等があります。自治体やスーパーのホームページでフードドライブが開設されているか、確認できます。富山県の場合は、ホームページに常設窓口や実施情報を掲載しています。

[富山県/フードドライブ実施情報 \(pref.toyama.jp\)](#)



### ◆フードバンク

フードバンクとは、「食料銀行 (foodbank)」を意味する社会福祉活動で、まだ食べられるのに、様々な理由で処分されてしまう食品を食べ物に困っている施設や人に届ける活動のことを言います。フードバンクでは、食品の収集・保管・管理・配布までの一連の活動全般を行います。余っている食べ物を持っている支援者の方と食べ物を必要としている受益者の方をつなぐ役割を果たしています。

農林水産省は全国のフードバンク活動についてホームページで掲載しています。令和3年11月30日時点で、156団体の情報が表示されています。富山県では「フードバンクとやま」という団体があります。 [フードバンク：農林水産省 \(maff.go.jp\)](#)



特定非営利活動法人  
フードバンクとやま

※以上の画像は各社・団体のホームページから

### ◆フードパントリー

フードパントリー (food pantry) とは、食材を無料配布する活動で、子育て世帯、母子家庭、1人暮らしの高齢者、経済的困窮者などを主な対象としています。フードパントリーで配付する食品は、主にフードバンクに集まった「もったいない」食品や、フードドライブで集まった家庭で余っている食品、地元企業や農家等から提供を受けた食品等です。

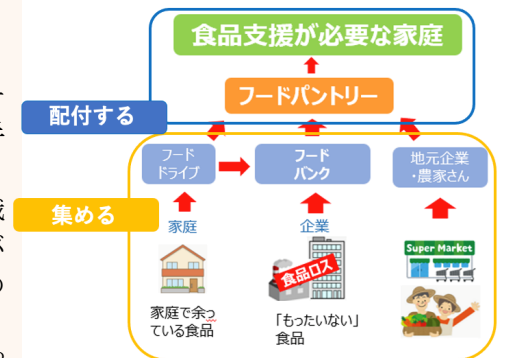
日本では、高齢者の貧困率は、19.6%、ひとり親世帯の貧困率は54.6%。このうち約90%は母子家庭と言われています。フードパントリーは食品ロス削減に寄与すると同時に、地域で課題を抱えた家庭と直接つながるきっかけとなる活動です。 [フードパントリーとは | 埼玉フードパントリーネットワーク \(main.jp\)](#)

### 最後に

フードドライブ、フードバンクとフードパントリーの関係は右の図のように示されています。食材がフードパントリーに来るまでのルートはこの限りではありませんが、簡単に言えば、フードドライブで集まった食材が、フードバンクに寄付され、そこからフードパントリーに寄付され、必要な人の手に渡るといった流れになっています。

食品ロスを減らすために、発生原因となる家庭や事業者の一人一人が意識する必要がある一方で、既に発生した食品ロスはフードドライブ、フードバンクとフードパントリーのような活動を通して、食事に困っている人々への支援に変えることが可能になります。

ちょっと残念なデータもありますが、農林水産省のデータによると、2018年フードバンクの食品取扱量は2850トンに対して、2018年の食品ロスの値は年間600万トンでした。食品ロス問題はまだ深刻ですが、みなさんはできる行動からしてみませんか。 [食品ロス量 \(平成30年度推計値\) の公表：農林水産省 \(maff.go.jp\) foodbank-22.pdf \(maff.go.jp\)](#)



画像出典：[フードパントリーとは | 埼玉フードパントリーネットワーク \(main.jp\)](#)

編集：マネジメント支援室 田